



三
無庫名所

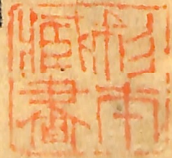


序

予看違和於坊市之次有示兵庫名所記
闕之雖匪寡不交於一州其畫中有山川江
海亦有曠野邨落也而神祠梵宇廢宮荒墳
森森亦既多哉將以區別乎方程揆計平政
事若夫貴客之歌章騷人之詩賦及血翁漁
父之談閭巷傳聞之語共收並貯已既而採
之不得小廣則載之亦不能不仄也然裁制



13768



291691
41

之王最得簡而潔予嘗遊於其地目擊厥二
三焉今之按此無索之則不賴縮地之術而
瞭然乎几席之間美矣吾子勤焉且夫家務
煩攘之餘理來會晤之徒森非潦倒杯酒彼
惑襟襟浪度日之吏者而尚作此好事苟可
謂有所用也而不徒消國者哉冬

寶永庚寅端五日

艸澤醫生識



83581

凡例

初丁に大概の摠圖として最方角を引

上乃卷ハ兵庫居近名所と先うて長北乃方

西之宮まで五里の内且くと又廣田より上郡邊に

及ぶまで其邊に古跡を同卷の末に追加

一下の卷ハ兵庫より南西のふち傍に播磨あまの

境川より約二里の所旧跡めて終る

一名所の古歌續集より出——載るに凡てその歌

集——二首宛並に

一所これより教と積り雨の巻後丁に集むる迄

及法も附り

攝津 故老俗傳云天探女神天磐船ニリ此國ニ

攝タル高津ノ号ヲ取テ攝津ノ國ト稱ス亦漢書云

攝然トシテ天下安云 宇彙云攝ハ靜謐ナリ兩儀

相共ニ要津ノ連續ニ取テ大上國トス上管十三郡所

謂

一西成 一住吉 一島下 一島上 一有馬 一兔原

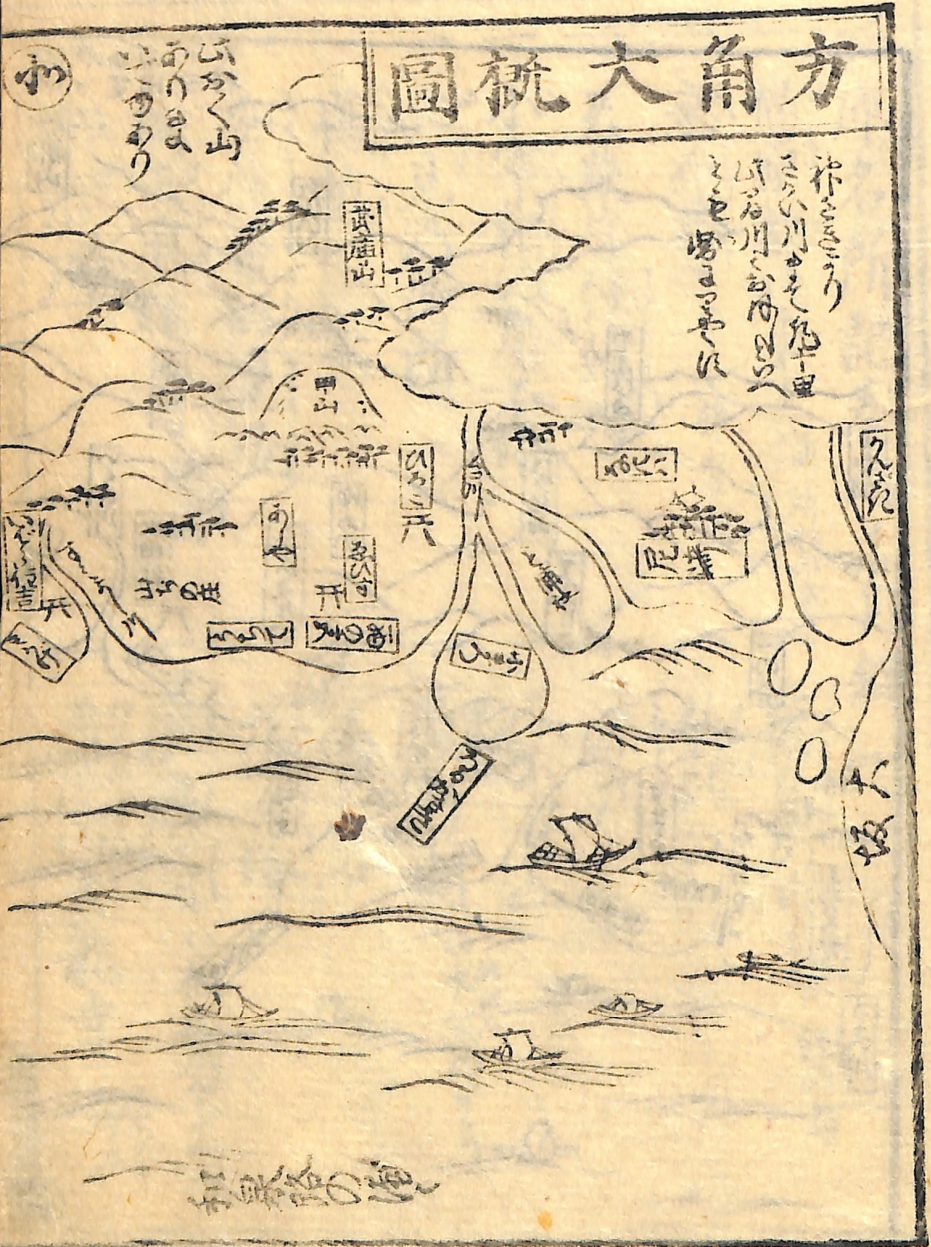
一武庫 一島上 一有馬 一兔原

一免原 一有馬 一兔原

一記の郡ハ矢田郡 一免原 一免原 一免原

川ノ邊の郡ハ肉を加里

方角大概圖





兵庫名所記卷之上目録

福原都事

○並地形の事

来迎寺

○ついでに天竺

若狭守経後塚

小宰相の肩石塔

承見乃所

鶴越

安徳帝假皇居

楠正成塚

○石礪國

宇治川

篠島の由来

○篠の島

佐比江

漆川

みまき山

美野村

○水室のさうり

天王谷

差方塚

廣嚴寺

○楠正成がいた

再度山太龍寺

○蛇谷

神戶村

河原兄弟塚

生田大明神

梶原井

北野天神

布衣の滝。日寺

小野坂。日寺

生田里

摩耶山。初利天上寺

船寺八幡

花熱城跡

生田本寺

藤梅。敷置萩

堀ヶ口印石

生田川。日山池。海浦磯

砂子山

敷馬の浦。日寺

同若菜

求女塚

弓弦羽。獄

御氣山

鬼不吉社

山。臨。遠。日湯

葦原里。日津沖浦。海

湯。えん。の。薬師。日松

阿保。親。王。寺。廟

佛前。沖。日廣

追加

廣田社

鷲林寺

沙。氣。森。○。森。松。系

灘。田。浦。○。五。百。塚

本。元。稻。荷。○。ふ。り。れ

夜。鳥。塚

折。出。村。○。金。峰。山

宿。河。原

西。の。う。や。あ。ひ。す。水。の。り

武。庫。山。六。甲。山

感。應。寺

- | | |
|-------|------|
| 角の松東 | 津之村 |
| 鳴尾崎 里 | さくねや |
| 小島崎 | 武庫川 |
| 翠浦明神 | 猪ヶ山 |
| 難波の里 | 堀江 |
| 大浦の浦 | 浦の物産 |
| 長洲村 | 神崎 |

兵庫名所記卷之上

一 福原都の事

抑振津の國矢田郡福原村兵庫八應保年
 中に築城成然して後平相國清盛入る海防の沙汰
 しては防の妙と被受り院小く成く治業に及ぶ
 六月二日人王八十一代安徳天皇 今年三歳 一院と一室を
 改殿とすめむを改大御所月御を若年家
 御を政入とす初門の人とて外百家人民しとて
 山崎の宮平安城より移るに後より他大御所
 移置る山崎皇居と成 意田村より九日新移と初

西へさして上郷の小徳大寺のたふ実を土に
宰相の中通親奉りおあはせう毎んが陰におく
の友夫ををくく和田のねるふれきとて介し元
城の地は割あふまふ一一条うのふ家こひ
ても下れ地や公にまらく金業あうこと
衆の政事ゆきど依く又要改あるて同しき
これ十一月廿一日回初は還幸ありもつち政入る
此地はあづくく領あり

○後系轉地地の事源平盛衰記ふふ小井井の
金政生田廣田西乃る名薨とてさうそめ代
あうして後のねる親乃ねふ代より無縁あり

き井小嶋も有りの勝乃る白雲窓同小つね後と願
はば雲のそとを校む曉乃る風の漢くもをいかに
茶海乃る天を望みせり夕陽も沈みききを吞み
漫くして遠帆をれ波は清まされ巨鯨花とく
眺望煙波は眼と遮り月の名を惜る頃ふあり
空路はふりりろく雲火燃るあり空の里れまの雲
いづきもそりぐりむすむるあり

一 築港の風中

ち政大平信盛公は兵庫の浦上下時集の松風波
の静あふらんをよそく無保先は二月上旬うら
て海と築りぬるに日八月二日大風は波と動し

さうのやうく元のまゝ海とありてきて日二の三月十日
の波民が成良をとりて築きしに又南風がふりて
忽ち自滅せしむる又海とありて又成良をとり
故ふ時の博土所信の泰氏とてよく同ふに天文地祇の
おかしきとてきくや考へけりは通例ゆへあり
かゝる人相へ入る築一のゆゑに成良すしきこゑに
依りて南風生田の小舟に因てす入姓来の旅人となり
捕へしに又歎息あり又年々おかしき童にねえ児
童いふとありてきくやも旅人の類とて我一人は俗
に入を命にきく人にて撫白馬に白鞍をかき海内小
りしきくやきく又教のふし一切終て事なり一陽行て

御底より一傳は龍神納豆とありてありて
かく此傳成然して姓来の記乃恐りておかしき
の規模とありて伝く終乃傳とておかしき又築き
奥の事兼安三 癸巳年とあり

一築徳寺 今兵庫町家の内東海とありて
浄土西山流神宮山来運とありて号正平清盛公を刻
あり應保元と七月十三日傳供養あり姓首七堂か
藍の立場ありと建武のは破却するなりと傳
一平堂阿弥施 ありての作 一観音寺 和同御底とあり
ありてあり

○靈寶
一人相の内系とありて松主とありて一清とありて
ありてあり

一經乃教キミ加カ 橋ハシ曇トモ跡アト髮ヘト 一每財天ツク俗ソク 弘法大師コフホウ僧ソウマ

一梅の宴は伽藍彫刻の像
は外什物なり

一經乃曉

樂為趙之達民之足服也

養助 海山又子氏 其の重西金（落）

一依此江
兵庫水候より西

後

[illegible]

一若獲古亭^{ひら}後^{うしろ}塚^{づか} 右^{みぎ}まへ^へのつゞき^{つづき}中^{なかつ}れ^れ本^{もと}のり^り

栗永○中一の谷合戦落城乃日形永の幸而に討て死す

一 漆川
兵庫小の北に門より一丁余街名の川

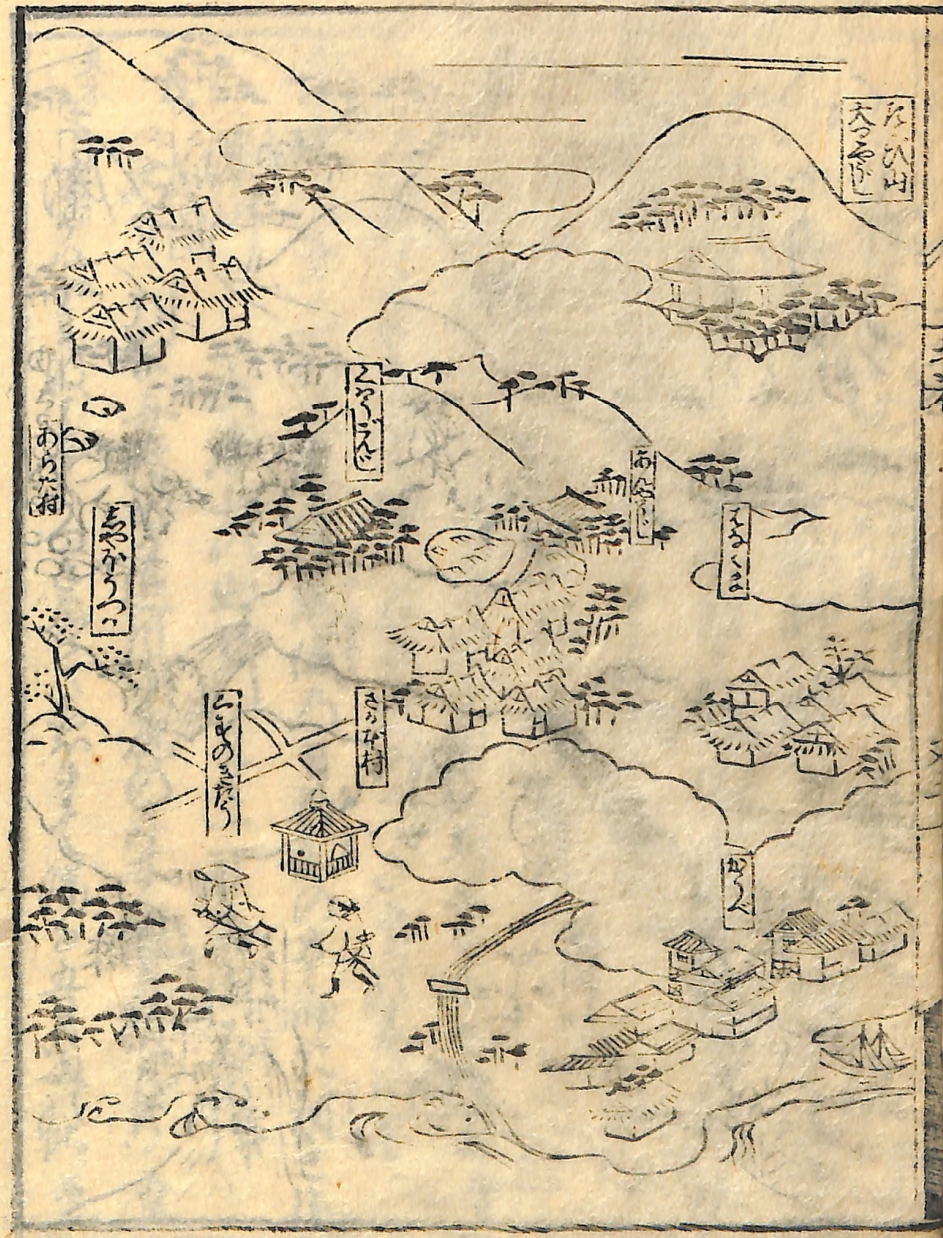
我

みそ川和舟漕出方追風不靡の疾今陳平後より 八箇

夫木

一 藩の分上は波々々々たるが、五月五日に





一 小宰相の高る峰 漆川の上鳥糸村に成るにあり
 一 此の八越あり三位通盛乃嘉敏承形初に範賢れ女に
 通盛一の若く何とありを歎き永承三乙二月十四日
 承一の身とあげ果てし不縁の老妾に夫婦のる境と
 たり今に古歌あり

一 漆山 川乃あより

一 漆山 川乃あより 漆川の上鳥糸村に成るにあり

一 漆山 川乃あより 漆川の上鳥糸村に成るにあり

一 漆山 川乃あより 漆川の上鳥糸村に成るにあり

一 漆山 川乃あより 漆川の上鳥糸村に成るにあり

一 漆山 川乃あより 漆川の上鳥糸村に成るにあり

忠孝著乎天下日月麗乎天天地無日月則
晦蒙否塞人心廢忠孝則亂賊相尋乾坤反
覆余聞楠公諱正成者忠勇節烈國士無雙
蓋其行事不可概見大抵公之用兵審強弱
之勢於幾先凌成敗之機於呼吸知人善任
體士推誠是以謀無不中而戰無不克誓心
天地金石不渝不爲利回不爲害怵故能興
復王室還於舊都諺云前門拒狼後門進虎
廟謨不藏元兇接踵構殺國儲傾移鍾簏功
垂成而震主策雖善而弗庸自古未有元帥

如前庸臣專斷而大將能立功於外者卒之
以身許國之死靡他觀其臨終訓子從容就
義託孤寄命言不及私自非精忠貫日能如
是整而暇乎父子兄弟世篤忠貞節孝萃於
一門盛矣哉至今王公大人以及里巷之士
交口而誦說之不衰其必有大過人者惜乎
載筆者無所考信不能發揚其盛美大德耳
右故河攝泉三州守贈正三位近衛中將
楠公賢明微士舜永朱之瑜字魯瑛之所
撰勒代碑文以垂不朽

右碑文十行跋文二行都令字數三百三十字也

同雨露の霞ハ有昔三間四方也

一 菩提所 坂中村西ふきじのあり

國山廣教廣勝縁あり号之後たひ天皇は勅
國山煥惠の極ある事刻中なる事跡は其堂と煥福殿
秘と心成の形像ありひは代記あり

○正成親死建武三年丙子九月念五日

○國山明極寂月九月念七日と西の山おた念連板
又書と

楠正成同身正妻いさの殿廣くかゝり一が十六時
七十三人自書と云正成軍十二歳

○廣教寺におも又大慈山安養寺とて貞享の申
為知法住より所廟にお美托るこ

一字法川 兵庫か八丁小御所の小川はあ上通り

字法中村 中法村と示あり

一再度山大慈寺 兵庫かやゝ所なる養の寺の

坂にお法住村と云ふ山中寺なり

△此寺は嘉永御名 けい徳寺あり

祇園山と名大尼山とて祇園寺の法堂は後永享二
年丑相和氣法廣瑞曼ふりてくは基傍に二刀三
乳の如き臨觀者自をの像をゆきひて開創し後入
又延暦年中に弘法大師はひふまきとて像を永福の

まて整ひ入庫し居ひ来り形をば酒とて
給あつて大同の中より人老ふあり
しを後大比五番妙中興の因縁とあり
傳會ありとて後人辨ふ

○觀應三の志和判友佐藤彦五郎見す
多岐の地とて志和は

一蛇谷 同山内あり

弘法大師入唐の時既と船とて歸り
どろろとらん人時め大蛇出でて
すむ事候ゆと終に唐に入船の
又ありは浦とありと大蛇死く
ありとて是を蛇

世大蛇の冥地ありと云ふ
つとくいふを蛇と云

一神戶村 宇治川のつとけ
こり西の口とて走水次と
こにおつては所より諸公の
和名類聚に神戶村とあり

青林功皇后三韓退治の
款の首とて見ゆとて
一花慈徳院 一べ村の上
は城の事とて福十郎の
か夫田初花とて城と築く
事本指はる村重に

東水原平合戦の時平家一の谷に敗れ逃ぐや
大將軍新中納言平知盛が二位平重衡に和心の
乃禁を南海まで送度本と曳垣橋と見おる
是より西第一の右橋原に公垣屋村と云ふ里ありて
城といふや

一 日大明神

とるの内々居る

後神良

祭神一座

稚日女尊

按社名小四座

「天照太神所妹と云ふ神祇

日本紀 稚日女尊坐于斎服殿而織神之御衣也
神功皇后紀云伐新羅之明年二月稚日女尊誨云
吾欲居活田長峽國因以海上五十狹第令祭之云

御位貞觀九年十二月十六日從二位

毎年八月より祭れり板東の尾村氏氏より

一 紫梅

右社内あり

一の若合戦より板東父子二度のけり時端と源と
紫梅の枝と並びけりゆきはあまこしと
すゆめ

王業

「時端といつら生田の郭と云ふ所と云ふ所の下敷

一 梶原守

同社内あり

左殿のこゑ梶原平三系結け井のあを結びて
運と生田の神よりあまのくまぐく

一 敷盛萩

同境内あり

大夫平敦基は水の碁と覺し和歌と地は碁と稱はれ
又敦基の遺るみありて故に敦基を父にありんとてこの名
へるのみありてなりと父は是に對面とて去りて
右記ありといふ處なり

一 城ヶ原の石 生田の森を三丁半ありて一村
あり提系氣船二隻のつけけお下の石を

一 小井天神 日邊さや村あり
信氣の年五歳大瀬を志能親傳くすはま和由のみ
さけより松焼あつりて中傳也

一 生田川 森分東流るの川あり
小分南へ流きより川曲り布川の流るる生田の池も

いかりをいそびりてあなを射しその備をたわりの
よりいそより求女隊のちとてさうとてさうとて
義一 志あるお原をたさるれは中井川ありて
この國の生田ありてあな今とてさうとて布川の池

一 生田山 日池。日海。日浦。日城 建徳寺

一 郭生田の山乃七あり免方ありてさうとて
月やう生田の代志をたはるるお原の池

一 おれは生田の海ありて沈むるお原の池
生田の浦のあなを我のつはるる

一 布川池 生田川のありて
天木 生田の池ありて生田の池ありて
六帖 生田の池ありて生田の池ありて
天木 生田の池ありて生田の池ありて

瀬二河やへ流るる大なる余海邊なるものあり
地くまへううと

千載 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
新古 〇くまへううと流るる大なる余海邊なるものあり

夫木 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
平治物語云小松の内蔵は瀬へ流るる大なる余海邊なるものあり

人難波を神領傍重なる命にうへく瀬を龍と云ふ
存するなりとすのなり
瀬のありに瀬をくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
たふのきく移るる大なる余海邊なるものあり
瀬源よりうへく瀬をくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり

一 砂子山 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり

夫木 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
一小野坂は場 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり

誓 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
夫木 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり

〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
中尾村なるものあり

一 敏満浦 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり

〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
三犬女 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり

〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
新古 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり
古く 〇あまのうへをくまへううと流るる大なる余海邊なるものあり

天 波之海あり勢のなるありとすれども此の

一生田里

夫木 編纂之風を以て其の地に生田の里れれり

一 松尾小田は人のかくつとも生田の里れれり

一 藤原の里れれり 藤原の里れれり

藤原の里れれり 藤原の里れれり

藤原の里れれり 藤原の里れれり

仁王門より内方のふれれり 仁王門より内方のふれれり

▲本堂 南向 十一面観音 ▲夫人堂 ▲西方塔

それ外法あり

折高の天長天皇の御世天皇法乃仙人の奉創する

不く不る親世者なり其の天皇法乃仙人の奉創する

座にありと圖傳標金といふ親世者なり其の天皇法乃仙人の奉創する

うの法乃十一面観音の法乃仙人の奉創する

大観の法乃仙人の奉創する

法乃仙人の奉創する

法乃仙人の奉創する

○夫人堂 夫人堂の法乃仙人の奉創する

法乃仙人の奉創する

人の形像二軀一刃之礼を彫刻し一軀守金像の

帝は納り一軀六寸五分弘法大師入道地持の法乃

豊後守の墓のふかきあり
 建前大僧堂とて寺院傍に三百字にふりて東の端
 系ふひすとて清き城と標列すの名称にり聖賢十
 小段とて古殿御座る今坊舎僅なり寺領なり
 一本光院 一極正院 一巨龍院
 一蓮華院 一大宗院 一明王院
 善門院 慈眼院
 元弘年中六郎の城より赤松公の意に龍城のふか山祖
 一求女塚 又奥女氏書し女塚
 かくの塚に女のけりうのいし女と云



一ツ 遠^{とろ}岡村^{かみ}より
一ツ 佐^さ古^こ川^{がわ}新^{しん}田^{でん}村^{むら}より
各^{おのづか}十^{じゅう}丁^{てい}あり

万葉
日
日
いふ（の）出回ちれまほしうまひし女のまゝまゝ
まゝまゝのうまひしまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
まゝまゝのまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
まゝまゝのまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
日
日

月

同

式己價大和物産物良材集ニ示ク見ユ

ひくはのまやの雲は女なりうみし女を幸ふ男

二人をとりひきりて同家魁系氏小竹田男今一人

和歌山を勢にすむにまんなるその国をもこの

比奈^{ナニ}よりむくままで日^ヒより女^メのひよりひ

生田の川はひびくをききあそそのう二人の男とて
て女の親れをうけ川は海へ流るあちを射てあこ
ろのうへへあそんとも男どもをよれたのてうりひ
らとあちの流るを射つ今ひよりへ鹿のてを射る
ゆと云々もゆづも女どもひよりと

恒流ぬ我身ききんはのまゆ面を川流のまゆ
こ流くは川身をまけぬ二人の男とてうとて同へ
男とまけ果ねぬ親のまけと怒りて取上げとひり
ぬ男れあちとす流るの女女の嫁るうに嫁と嫁
う流びとてはのまけ男の親のまゆ同まきと同ま
嫁とせは化のまの人の年うはあの上と記て中へ嫁る

和泉の親やまゆとてうり船中とまきとてひ終はせあり
は嫁り本欄のふれとてうけまきとてうりとの世と
とととの色うりてあり

和泉の親やまゆとてうり船中とまきとてひ終はせあり

建武の中ふ山田をゆきあそ女どもあちとて射死又新田
親自をよりあちあり

一 船寺 大田村おとて杜あり 正八んを記す

あちの流るを射るすうとて流るもあち

一 和泉の親やまゆとてうり船中とまきとてひ終はせあり

ひり新田をゆきあそ女どもあちとて射死又新田

解とより船の号にふりて老来待客と称す也
や月九のり大群のり

○腰る 外あーりあり

○この松 ち場の並木の内より

○昔の 方角つまびくちびとでも一現老来

船魚船と云はれり川の末より一村あり

無神てまのほり松よちあてふむ艘の船せ遊

りあゆみ武庫の漆ま席の浦と云ふ入るありと云

まふ集つてふくむる船乃号ありと云

一 灘四浦 大木村の古倉のる候者なり

夫木 船よりまのちや入る難波の田舎の浦よりなる 国信

日 割の船の離れ素風をいへ候山極浪りしす

一 山崎城 行所をあらふ山の方田の中になり

はみおれは徳判をあらふ別実松城なり

○月湯 老来船は寄 中 横倉 魚船

為事本 田中 山崎の店と云はる海ちく

船と云ふゆと云 月夜集秋乃行まみなり

横倉に伝ふる月と月半に船よりなり

伝ふけるふはのふ山崎と云ふ老来船なり

船のちと云はるすくつりけり

一 中 船のちと云はるすくつりけり

一 中 船のちと云はるすくつりけり

の海もさうれきある森村の民衆にうりたる村ま
あやと船とせりお前事を新りて民がのく
株とさうさうとせりお前事を新りて民がのく
名中氏村とあらぬ森村の民衆にうりたる村ま

。同増松 ふうん村とていふ

青はあまて森村の稲の村事株とさうさうと
をりより一増松といふ

一華屋屋 ふうん村とていふ

同くさうの里の増松の村とていふ

同くさうの里の増松の村とていふ

同くさうの里の増松の村とていふ

定家 家隆

。業平の里の増松

は若松の里の増松

よりぬく業平の里の増松

一時の増松の里の増松

。業平の里の増松

。業平の里の増松

。業平の里の増松

。業平の里の増松

。業平の里の増松

。業平の里の増松

。業平の里の増松

。業平の里の増松

〇猿丸をま 無公光四極けあふ村の内外に右述
 のこり傳授不詳猿丸をまの石塔ハ川が末を
 一 鶴塚 芋屋川東ふた下手にあ
 通清沈の時係二位相政失而く射あふ
 紀高鶴系へ入く高満ふふは芋屋の浦小
 おきこふく高満浦人そとわくそよほし
 一 湯元の業師 同系二系村の石に地盤ふし
 一 高ふ馬過最れ海に熊井指現の村力小く南
 海ふは芋屋の浦へ川海へと伝有いふる温泉
 山の後坊月次系猿丸と此高像と海とほせか
 蓋彼壊して今事そとふれりびり北松村に仍て

湯元の松より

一 芋屋津 旧浦 旧傳 旧仲

〇 湯元の浦へ海に眺かふはけの小橋もさふなり
 業平

〇 湯元の浦へ海に眺かふはけの小橋もさふなり
 業平

〇 湯元の浦へ海に眺かふはけの小橋もさふなり
 業平

〇 湯元の浦へ海に眺かふはけの小橋もさふなり
 業平

〇 湯元の浦へ海に眺かふはけの小橋もさふなり
 業平

一 金津山 赤土村より水の園山あり

〇 湯元の浦へ海に眺かふはけの小橋もさふなり
 業平

に云ふ事一多と云くそと傳ふ

朝日サ入日輝クノ下ニ金千枚瓦万枚ト云

一 寺出者 去唐分田里余うゐのか銀一杖この浦

ひし神功皇后三韓征討しあひく築家いふり

あひ皇のまじり光則中この御子 康神天皇皇子 子附あ一の

皇子 藤原二君 熊の皇子とあひく軍士といふ

い流は集く舟と傳皇后をたあひく南満洲にて

海濱いあひく皇子軍士討つといふくら出の流り

らあひくしり秋名所寺の流ハをいふり

○ 寺氏いあひくの附なるび重安じんわ

一 河保親王寺廣 志寺出村よりいあひく平城天皇



免原住神社

あや

信り村

ミウリ

荻松の

と海をさぐりて神をみ入る候とやし又其の神
治の無きふとい比は理あらずと云ふ事なりと云ふと
武彦朝と云ひ神功皇后紀に云ふ事なり

又云 神功皇后の神をみ入る候と云ふ事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり

一西云 神功皇后朝より武彦朝の事なりと云ふ事なり